

研究課題「当院での子宮頸部円錐切除術後の治癒成績及び妊娠分娩の転帰」へご参加いただいている方へ

子宮頸部円錐切除術（以後、円錐切除術）は主に CIN3 あるいは CIN2 が長期に続く方あるいは HPV 陽性の方に施行されます。通常、閉経前で妊娠性を保ちたい方が対象です。当院は産科専門の病院ですが、婦人科腫瘍医である筆者が、がん検診や妊娠初期検診で頸部細胞診に異常があった方を対象にコルポスコピー下生検を施行し、CIN3 等の場合に円錐切除術を施行しています。腫瘍専門の病院では円錐切除後の妊娠分娩、あるいは頸管長短縮による子宮頸部縫縮術の有無に関しては情報を得られないため、円錐切除術後の方の妊娠性に関わる正確な実態が分かりません。当院で円錐切除術を施行した場合、ほとんどの方が当院で分娩なさるという好条件のもとで、円錐切除術自体の生命予後と妊娠性に関する予後を調べ、円錐切除術へのフィードバックを行うことで、さらに両方の予後が良くなるという意義があると考えております。すでに治療を受けた方のカルテ調査ですので、新たに追加の検査等はありません。また個人の名前やデータが外部に出る可能性はありません。本研究の対象となりうる方で、解析を希望されない場合は末尾に記載の連絡先までご一報くださいますようお願い申し上げます。

【研究課題】

当院での子宮頸部円錐切除術後の治癒成績及び妊娠分娩の転帰（決裁番号：第 215 号）

【研究機関名及び自機関の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 総合母子保健センター愛育病院 産婦人科
研究責任者 婦人科 宇津木久仁子
担当業務 研究の遂行

【共同研究者】

産婦人科部長 川名有紀子
産婦人科部長 山下隆博
産婦人科部長 竹田善治

【研究期間】

承認日～2027 年 3 月 31 日

【対象となる方】

2018 年 12 月から現在 2026 年 9 月までに円錐切除術を施行した方

【研究の方法】

研究対象者の方について、下記の臨床情報を電子カルテより取得します。

- ① 臨床所見（年齢、妊娠分娩歴、子宮頸部細胞診異常が発見されたきっかけ）
- ② 細胞診所見（ASC-US, LSIL, HSIL, ASC-H）
- ③ 病理学的所見（術前、円錐切除術後）
- ④ 円錐切除術後の細胞診
- ⑤ 円錐切除後の妊娠分娩の有無（分娩週数、頸管縫縮術の有無）

これらを調査することにより、1. CIN3 あるいは CIN2 に円錐切除を施行した後の再発有無、2. 円錐切除後の合併症の有無、円錐切除術後に妊娠分娩した症例の頸管縫縮術や早産の有無 について解析します。

【個人情報の保護】

この研究のためにご自分（あるいはご家族）の情報・データ等を使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の問い合わせ先にご連絡ください。研究に参加いただけない場合でも、将来にわたって不利益が生じることはありません。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

取得した情報・データ等は厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。今回の研究成果は、2026年10月に開催される、第35回日本婦人科がん検診学会で発表します。

この研究は、愛育病院倫理委員会の承認を受け、愛育病院院長の許可を受けて実施するものです。

なお、この研究に関する費用は、かかりません。

本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。尚、あなたへの謝金はございません。

この研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

2026 年 9 月 15 日

【連絡・お問合せ先】

研究責任者：宇津木久仁子

〒105-8321 東京都港区芝浦 1-16-10

総合母子保健センター愛育病院 産婦人科

Tel: 03-6453-7300 Fax: 03-6453-7301